

《著者紹介》

光成準治（みつなり・じゅんじ）

1963年 大阪府生まれ・広島県育ち。

九州大学大学院比較社会文化学府博士課程修了。博士（比較社会文化）。

現在 九州大学大学院比較社会文化研究院特別研究者（日本中・近世移行期史）。

著書 『中・近世移行期大名領国の研究』校倉書房、2007年。

『関ヶ原前夜——西軍大名たちの戦い』NHK ブックス、2009年／角川ソフィア文庫、2018年。

『毛利輝元——西国の儀任せ置かるの由候』ミネルヴァ書房、2016年。

『九州の関ヶ原（シリーズ・実像に迫る18）』戎光祥出版、2019年。

『小早川隆景・秀秋——消え候わんとて、光増すと申す』ミネルヴァ書房、2019年。

『本能寺前夜——西国をめぐる攻防』角川選書、2020年。

『天下人の誕生と戦国の終焉（列島の戦国史9）』吉川弘文館、2020年。

『毛利氏の御家騒動——折れた三本の矢』平凡社、2022年、ほか。